

上方演芸よもやまばなし (第2回)

天満天神繁昌亭の誕生以来、空前の「上方落語ブーム」といわれています。私も寄席に行く機会が増え、先日、大阪市内の某神社で定期的に開催されている寄席に行ってきました。その日のお気に入りネタは「宿替」。上方落語の有名な演目のひとつで、長屋へ引越しして来た夫婦のドタバタ話です。ドジな亭主が、女房に頼まれて箆をかける釘を打ったものの、完全に打ち込んでしまい、隣家に謝りに行くのですが…と、終始ハラハラドキドキしっぱなしの内容です。シフも気にせず大笑いしながら、ふと私の目の前に、2つの映像があることに気がきました。落語家さんを見ながら、同時に、長屋の風景が広がっているのです。

夫婦喧嘩も、隣家とのやりとりも、鮮明に浮かび上がってきます。そして、落語家さんがお扇子を叩いてシーンが変わると、それに合わせて、もうひとつの映像も変わるのです。落語って、なんて想像力を豊かにしてくれるんだろうビジュアルに頼りがちな昨今、落語の醍醐味を味わえたひとときでした。

松井 あゆ子



これからの笑い人材育成 -勉強できる子から賢い子・おもしろい子へ- NPO法人健康笑い塾 塾長 日本笑い学会 理事 中井 宏次(笑家さく風)

大阪では、おもしろい事を言うと、大阪のおばちゃん、[この子おもしろいな、出世するぞ]と言う。大阪では、おもしろい=出世である。商人の町大阪らしいですが、最近、おもしろい子が少なくなり、勉強できる子が増えた様に感じる。そこで、今回、勉強できる子、賢い子、おもしろい子、3分類して、これからどのような子がこれからの大阪に求められるか検討してみる事にした。

Webサイト
連載コラム

	将来の姿	笑いへの取り組み	笑いの信条
勉強できる子	学校のエリート	笑われることに慣れていない	笑われたら終わり
賢い子	会社のエリート(出世する)	笑わずことを楽しんでいる	笑われたら成功
おもしろい子	社会のエリート(成功する)	笑われることを楽しんでいる	笑われたらチャンス

貴方はどのタイプですか。どのタイプが良い悪いもなく、どのタイプも社会では必要なタイプで、なくてはならない人材ですが、大阪を活性化するには、もっと「賢い子・おもしろい子」を育てていかなければなりません。そこで、「賢い子・おもしろい子」を育てるための5か案を掲げます。一度ご賞味して下さい。

1. 小さい時から、なぜなに(とんち)をする
2. にらめっこをする(顔の表情を豊かに!)
3. 見る笑いから読む(読む)、聴く笑いへ
4. とにかく褒める
5. すべてを受け入れる(そんなあほな!)

【解説】
 1. 小さい時からのなぜななどは、頭の発達に役立ちますし、何より親子のコミュニケーションに役立ちます。子供が親に勝てる唯一のゲームと言ってもいいでしょう。例:空気が気体、水は液体、それでは氷は? 勉強出来る子(動物)、賢い子(冷たい)、おもしろい子(食べたい)、あなたの答えはどちらでしたか。
 2. にらめっこは、無言語コミュニケーション、ボディランゲージの代表的な例で、顔の表情を変えて相手を笑わす。表情豊かな子供が育ちます。
 3. 最近では、テレビの影響で、与えられる笑い見る笑いが多く、それも新しい笑いへの挑戦で、否定はしませんが、少し想像(創造)する笑い、聞く笑い、観る笑い、読む(読む)笑いを楽しんでほしいと思います。(例:落語、川柳、都々逸、歌舞伎、狂言等)
 4. 褒める。大阪では「おだてる」とでもいいますか。山本五十六さんの言葉の様に「褒めてやらねば人は育たず」があります。子供は褒めてやると思いもかけない力を発揮します。大人も同じです。一つ褒めて二つ褒めるですね。
 5. 1+1=3でもないではないですか。大切な事は、何故貴方はその様に考えたかです。子供は、大人の考えつかない事を考えます。それが、新しい発見、新しい発想の根本で、成功への近道様に感じます。「そんな、あほな」を大切にしたいですね。

以上が、私の独断と偏見の5か案です。皆さんのご意見は如何ですか。次に、これからの新しい笑いに何故おもしろい子が求められるのか。笑いの順位で比べてみます。

	笑い順位	楽しい範囲	笑いの勉強
勉強できる子	笑い初級	自分が楽しい	笑いを楽しむ
賢い子	笑い中級	他人も楽しい	笑いを観る
おもしろい子	笑い上級	周りも楽しい	笑いを創る

これも、それぞれの個性があり、どれが正解でもないです。今、笑いブームと言われて、あらゆる角度から笑いが分析されている。大阪人からすれば、「笑ったらいいのや。笑いの何を分析するのや?」と言われそうですが、笑いを一つの学問にするには、分析が必要なのである。でも、「そんな関係ない」ともまた、言われそうである。それだけ、笑いが大阪人に定着しており、切っても切れない関係になっている証拠です。最後に理屈はく笑いの効用を掲げます。

【笑いの効用】 1. 免疫力が上がり健康になる。 2. 幸せになる。笑う門には福来る。 3. 仕事は楽しく人生はおもしろくなる。

笑いの効用は理解出来るが、笑える人はいいが、笑えない人、笑わない人はどうすれば良いのが今後の大きな課題かもしれません。そこは、大阪人らしく「丁度一減減なところで、」次回とさせて置きます。お付き合い有難うございました。

「社会保険労務士法制定40周年 年金労働なんでも無料相談会」

「年金、労災、セクハラ、サービス残業、解雇、過労死...こんなことで困ったことはありませんか?」
 労働問題・年金問題のプロである社会保険労務士が、電話やネットを受けて無料相談会を行います。
 コントには、関西演芸推進協議会の会員が出演します。軽く笑ってから、年金記録の確認をしましょう!
 相談ブースは予約不要で、どなたの年金記録もその場で調べることができます。
 個人でいるなら、是非、この機会にご相談ください!

編集後記

運動会のシーズン。最近ばかりは撮影機材の私ですが、カメラを持って観戦に行くと、ついつい盛り上がり過ぎていて撮影機材を忘れてしまっていることに気がつきます。これも結構、いい運動になっているみたいで、翌々日にいかに(もう若くないので体の反応も少しおくれがら)筋肉痛を体で覚えます。カメラを持ち帰り、撮った写真を見ると、その無き顔が「解」ってきて、ビデオとはまた違う感動を感じ出すことができます。そう、1枚の静止画像から、様々な情景を想像したり、その時のことを思い出したりできるのです。当会雑誌「笑らいぶ」も、掲載されたイベントの写真や動画を掲載しているのですが、会場の様子が、本誌を見て、いろいろなお話を聞いたりしたいというように感じているのであります。まだまだ課題多し…。次号も頑張って情報発信をしますので、おつきあいくださいませ!

イベント報告&案内

■関西演芸推進協議会「第6回笑らいぶ」
 平成20年11月23日(日) 会場:13:00 開演:14:00
 於:そごう劇場(そごう心齋橋本店14階)
 入場料:会員3,000円 前売3,500円 当日3,800円
 ~第1部:講演~ 講師:木津川 計氏
 (専門誌「上方落語」発行人、和歌山大学客員教授、川西市生涯学習センター学芸員)
 ~第2部:演芸~ (出演者:桂福車、高田、三原、横山、泉、左、シンドラ、山、泉)

NPO法人関西演芸推進協議会「会員募集中!!」

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動を行っています。思いやりあふれる思いと存在がこの協議会。そして演芸を活性化します。皆様のご入会もぜひ、ご友人、お知り合いの方にもお声をかけいただければ幸いです。
 お問い合わせは下記まで:一會報誌「笑らいぶ」への広告掲載も募集中です!
 NPO法人関西演芸推進協議会<事務局>
 大阪市浪速区難波中1-10-4 千房株式会社内
 TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435 mail: info@walive.org
 協議会のウェブサイトもご覧ください! http://www.walive.org 笑らいぶ

関西演芸推進協議会 会報誌
 w a l i v e
笑らいぶ
 「笑らいぶ」とは、「笑」、「演」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名前にしました。
 http://www.walive.org info@walive.org

第5号 2008年10月

発行/NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
 <事務局>大阪市浪速区難波中1-10-4 千房株式会社内
 TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435
 http://www.walive.org info@walive.org

INFOMATION

NPO法人関西演芸推進協議会も二年目の秋を迎えました。今年度は誌面でも紹介しております「大阪市商工会総連盟」とのコラボ企画のイベントで賑わっている当協議会。共に繁栄すること、文化として継承していくことを目的に活動中です。参加していると、「演芸」を通じて、世代を超えて色々な人と触れ合える良い機会であることに気づきます。ほぼ毎週、大阪市内のどこかの商店街で行われるミニ寄席。残りのスケジュールもあと少しになりましたが、商店街という人と人が交流するステージでの鑑賞もまた良し...ということで、気分転換には是非お立ち寄りくださいませ。他にもイベントを色々企画中です。随時案内しておりますので、HPも時々チェックしてくださいね。

CONTENTS

会報5周年記念	1頁
イベントレポート(商店街ライブ・第1回記念講演)	2頁
会報連載コラム「笑らいぶ」	3頁
協議会入会のご案内 他	4頁

笑らいぶ第5回 NPO法人関西演芸推進協議会 二年目の夏の千秋楽...

2008年
8/24日
in そごう劇場



北京オリンピックも閉幕となった同日、残暑厳しい8月24日に第5回笑らいぶがそごう劇場で開催されました。今回は、三原佐知子さんの浪曲や高田さん・尚弥さん親子の仕舞&歌、泉大介さんの歌などが新鮮でインパクトがあり、見ごたえ聞きごたえたっぷりの舞台を味わうことができました。桂福車さんの落語、若手漫才師三組の芸も会場を大いに盛り上げ、

▲会場はリラックスした雰囲気、和やかな笑いに包まれていました。 ▲おなじみの「落語幕」。会場にいただきました皆様、ありがとうございました。



トリは正司敏江・玲児さんの歌あり、漫才あり、会場サービス(?)あり、お客様と芸人が共に交歓した「笑らいぶ」。上方演芸の奥行きを約三時間で味わうことができました。また、夏休みということもあり、お子様の鑑賞者もちらほら。世代を超えて楽しんで頂くことができたことが何よりも嬉しく、暑い中ご来場くださったお客様に、感謝する次第です。
 次回も多くの方と触れ合える素敵な企画をと考えておりますので、どうぞご期待ください。



イベントレポート 「大阪お笑い商店街 ～若手芸人 怒涛の25回連続ライブ～」

2008年
8/2 ▶ 11/30
大阪市商店会総連盟

大阪市の商店街の繁栄と共に
関西の演芸の盛栄と、
若手芸人の出演機会の創出、
伝統継承のために…

大阪市内の商店街が集まって組織されている大阪市商店会総連盟との協働企画で、商店街の空き店舗を活用したイベントへ芸人さんを派遣する連続出前寄席を開催しています。

商店街の活性化と演芸文化の普及振興のコラボレーションです。希望する市内の商店街から先着で25箇所で開催しています。



▲子どもからお年寄りまで、お笑い物のついでに気軽に寄席体験。暑い日でしたが、ご来場、ありがとうございました！

大阪お笑い商店街 ～若手芸人 怒涛の25回連続ライブ～ 開催インフォメーション

8/2 (土) 15:00～16:00	丸善新道3丁目商店街	10/19 (日) 14:00～15:00	関日本通東商店街(城東区関目)
8/9 (土) 17:00～18:00	長吉中央商店街(平野区長吉長原)	10/25 (土) 14:00～15:00	藤村通り商店街(都島区大東町)
8/25 (月) 16:00～17:00	生野銀座商店街	10/26 (日) 14:00～15:00	駒川商店街(東住吉区駒川)
9/6 (土) 15:00～16:00	あべのペルタ商店街	11/2 (日) 15:00～16:00	地下鉄あびこ中央商店街(住吉区羽田)
9/13 (土) 16:00～17:00	生野本通センター商店街	11/9 (日) 14:30～15:30	新道新道商店街(東成区大今里)
9/14 (日) 14:00～15:00	駒川駅前商店街(東住吉区駒川)	11/15 (土) 14:00～15:00	野田商店街(福島区野田)
9/15 (月) 16:00～17:00	天五商店街(北区天神橋5)	11/22 (土) 13:00～14:00	飛田本通商店街(西成区山王)
10/4 (土) 17:00～18:00	南堀野商店街(城東区堀野)	11/23 (日) 14:00～15:00	今里新橋通商店街(東成区大今里)
10/5 (日) 14:00～15:00	銀座商店街(東住吉区駒川)	11/28 (金) 14:00～15:00	王寺商店街(阿倍野区王子町)
10/8 (水) 14:00～15:00	大阪鶴橋市場商店街(東成区東小橋)	11/29 (土) 14:00～15:00	桜通商店街(都島区)
10/11 (土) 14:00～15:00	新森商店街(北区新森)	11/30 (日) 14:00～15:00	難波センター街商店街(中央区難波)



▲客席の一体感が商店街ライブの魅力!! ▲笑いで盛りあがった「シンデレラエクスペリエンス」 ▲髪型で印象づけよう「深淵」の「明かり」の、松原タニシさん。 ▲HITHの軽快な漫才と「思い出せや、お客さんの方か?」松原タニシさん

会員の皆様も是非上方文化を架け橋として活動する協議会行事にご参加くださいませ!

イベントレポート 「平成20年度 第1回記念講演
～「上方芸能」発行人、木津川 計先生による講演～」

2008年
7/16 (水)
in ホテルメトロポリ



明治時代、若者の中でブームになった音楽「琵琶」の話にはじまり、大正時代の無声映画、昭和、平成へと、時代の移り変わりと共に娯楽や演芸の楽しみ方、表現方法などが変わってきたことと同じように、笑いの傾向も変わってきている。時代背景に伴って変化してきた「笑い」の傾向をわかりやすく、また、軽やかなジョークを交えながら、大変おもしろい内容で、勉強になるお話をいただきました。中でも、演芸のブームの話の間に、落語2話(「天狗裁」、「千両みかん」)を演じていただき、受講者のこころはもう木津川先生の虜…。会場は時折、笑いの渦が巻き起こる、和やかな1時間の講演会となりました。笑いの裏に時代背景ありというところは興味深く、また、「落語」の第三世代の時代といわれる今、もう既にブーム到来の余波を感じます。ぜひ、一度、落語を聞きに行ってください。そんな上方演芸の醍醐味を味わえる貴重な講演会でした。

上方芸能 雑誌「上方芸能」

1968年4月26日に「上方落語をきく会」の会報として創刊された雑誌「上方芸能」。当初は落語中心の内容でしたが、徐々に上方(京阪神)の芸能全般を取り上げる雑誌へと進化していききました。

現在では能・狂言、歌舞伎、文楽、日本舞踊、上方舞、邦楽、現代演劇、歌劇、落語、漫才など、幅広いジャンルを毎月取り扱ってられ、どれかひとつでも芸能に興味をお持ちの方、関心はあってもまだ情報収集ができていない方も幅広く読んでいただけます。一読すれば古典から現代まで、上方発の芸能に触れることができ、どんな世界にのめり込んでいくこと間違いなしの雑誌です。

※雑誌「上方芸能」は年に4回(2・5・8・11月)発行です。全国の主要書店にてお求めいただくことができます。

本の紹介 BOOK

「笑かしてなんぼ」 「関西のお笑い文化」シリーズコラム

其の3 みんなで育てたいーお笑いの文化。

関西といえば「演芸」や「お笑い」の聖地みたいなイメージがあります。それは、1615年に道頓堀が完成後、大阪を中心に関西は芝居の町、演芸の町として発展してきたからではないでしょうか。



そんな関西では「演芸文化」「お笑い文化」を大切にしていって、「人を笑わせることは偉い」という考えがあるように思います。だからこそ、一般の家庭でもボケ、ツッコミの会話を大切にしてきたのではないのでしょうか。うちの祖父もよく「大人になったら、笑われる人ではなく、笑わせる人になりや」と言っていました。

また関西では、いつの時代も民間が積極的に演芸文化、お笑い文化を支援してきたように思います。若手を育てるために、あるいは演芸文化、お笑い文化を広めるために、高亮度外視で、銭湯で「寄席」が開かれたり、料理屋さんなどで演芸の催しが行われたりしてきました。

考えてみると、まちぐるみで演芸文化、お笑い文化を育ててきたように思います。そして、これからもまちぐるみで育てていってほしいと願っていました。

そんなある日、目に入ってきたニュースがありました。大阪の堺市と関西大学が新学部「健康文化学部」設置(平成22年春)で協力しようという内容の記事が新聞に出ていました。研究には「健康とユーモア科学」というのもあって、関西のお笑い文化の研究も行うようなのです。この記事を見て、思わず、にっこりしました。

2006年には「笑い与健康学会」も誕生しています。

今や、健康にも欠かせない笑い。そして、昨今、暗いニュースが目につきますが、今の時代こそ笑いが必要。「笑う角には福きたる」、この言葉で締めくくりたいと思います。

編集分室 八木純子
(編集分室発行ネットマガジン「エルバイエル」)http://www.lxi-net.com

「駆け出し講談作家の願い」

シリーズコラム(第2回)

最近、いつ笑いましたか?そして、いつ泣きましたか?老化は感情からとも言われます。「笑えなくなった」だけでなく、「泣けなくなった」と言うのも、老化の兆し。時には大いに泣くこともお勧めします。涙は「心のこりをほぐすハートのマッサージ」と言われるほど、実はストレス発散に役立つのです。さあ、泣きましょう!イチ・ニのサン。さあ、泣こう、泣くんだ、泣け!と言うのもなかなか無理な話ですよ。ならば、講談を聞いてみませんか?講談も落語も、たった一枚の座布団の上で演じられる「話芸」ですが、この両者が大きく違うのは、落語が笑わせることが絶対条件であるのに対して、講談は様々な感情に訴えることができる点です。

講談イコール勇壮な戦記ものと言うイメージが強いかと思います。が、いやいや十分泣ける作品も多いのです。そこで「駆け出し講談作家」の小生も、泣ける作品にチャレンジ。江戸時代の学者・中江藤樹の有名なエピソード「あかざれ膏薬」の話を読講談化してみました。離れて暮らす母親を思い、あかざれに効く膏薬を持って帰ってきた九歳の息子を、寸暇を惜しんで勉学に励むことを望むこの母親は涙ながらに追い返すのです。藤樹が生まれた滋賀県高島市で実際に披露させていただきましたが、会場からは、鼻をすする音が何度も何度も聞かれました。それを聞き、作者も、また鼻を何度もすするのであります。講談は聞くのも、書くのも老化防止になるのであります。 毎日放送宣伝部長 大谷邦郎

「ホツト」する話…

～笑らいふ(第5回)より～

8月24日(日)第5回笑らいふに、児童福祉施設の子もたちを招待しました。夏休みも終わりということもあり、子どもたちに演芸に触れてもらおうということでの招待でしたが、感想は如何に…? ということで、右に紹介させていただきます。

＜子どもたちの感想＞

- 初めてお笑いを見て、とても面白かった。
- 演曲は親子の話やってなんぼと自分の親に思いを寄せた。
- 拍手のタイミングを中井社長さんが教えてくれてよかった。
- 初めて生でお笑いを見て、何だか驚いたし、感動した。
- 演曲にも感動して、何だか涙が出てきた。
- 漫才の最中、大声で何度も笑った。

- あんなに大声で笑い続けたのは初めてだった。
- 正司被江さんに、最後に握手をしてもらい、嬉しかった。
- 出演者の正司被江さんは知っていた。(知っていたことに、先生は驚いていた。)
- 正司被江さんが温かい目で僕たちに話しかけてくれたのが、印象に残った。
- 始め行く前は、あんなに面白いとは思ってなかったのに、気がついたらずっと笑っていた。
- 帰ってもしばらく興奮していた。